



安全対策特集 “備えあれば憂いなし” ウェビナーより

『自然災害で生活はどうなる？どうする？安全に暮らす秘訣は？』

ヒューストンで想定される大規模自然災害としてハリケーンがあります。毎年6月から11月までの間はハリケーン・シーズンと言われており、災害に備えた十分な準備を前もって進めておくことが非常に大切になります。ハリケーンの被害規模は各年によって変わりますが、2017年のハリケーン・ハービーでは記録的な豪雨により洪水や浸水、停電、断水といった甚大な被害がもたらされており、そのようなケースも念頭において準備、対策を行うことが重要です。

商工会では今年5月13日に自然災害に関する“備えあれば憂いなし”ウェビナーを開催し、実際にハリケーン・ハービーや2021年の大寒波による停電や断水といった自然災害を経験された二名の会員様から貴重な体験談をご講演頂き、多くの方に高い関心を持ってご視聴頂きました。実際に遭われた被害の様子や、日頃からどのような準備が必要となるのか、また災害が発生した際にはどのような対応をしなければならないかといったことについてお話し頂きました。ご講演内容を中心に自然災害への準備や対応アドバイスを幾つかご紹介しますのでご参考にして下さい。尚、当日のウェビナーの様子はホームページの「会員専用ページ」(要パスワード)にご講演の録画映像や資料を掲載していますのでそちらもご参照願います。

(竹原優 安全危機管理特命理事・編集部)

<水・食料等の確保>

- ハリケーンの接近前から長期間に亘って水や食料品の売り切れ、またはお店が閉店する可能性があるため、1-2週間分ほどの飲料水と非常食を前広に確保しておくことが必要。米、パン、パスタ等の他、カップ麺や缶詰等の保存食を準備。
- 停電期間中の調理のため、簡易ガスコンロとガスボンベを常備。
- 断水すると食器洗浄が難しくなるため、災害時は使い捨て食器も有用。

<充電器・懐中電灯>

- 大規模な自然災害時には携帯電話が重要なライフラインとなるため、停電に備えて充電器(乾電池式、ソーラー式)を常備。
- 携帯電話の充電が切れることも想定し、大切な連絡先はメモを取っておくことが望ましい。
- 停電時の夜間活動用に懐中電灯やヘッドランプを常備。

<自動車>

- ハリケーン接近時はガソリンスタンドに長蛇の列ができたり、ガソリンが売り切れることがあるため、日頃からガソリン残量が半分を切れば給油する習慣を付けておく。

- 洪水により自動車が被害を被ることがあるため、豪雨が予想される場合には自動車を立体駐車場の高層階等に移動しておく。

<現金>

- 停電時にはお店やATMでカードが使えないことがあるため、現金を準備しておくことが必要。できるだけ小額が望ましい。

<緊急時の持ち出しキット>

- 洪水になった場合、短時間のうちに水かさが一気に増して急遽避難を余儀なくされる場合があるため、飲料水や非常食、2-3日分の衣類、現金、パスポート、衛生用品等を入れた緊急時の持ち出しバッグを準備しておくことが望ましい。
- また、緊急持ち出し用の貴重品等のリストを準備しておく。

<在留届>

総領事館にオンラインで[在留届](#)を提出。在留届の情報に基づき、ハリケーン等の災害時には総領事館からの情報発信を電子メールで受領することができる。尚、外国に3カ月以上滞在する場合、提出が義務づけられている。

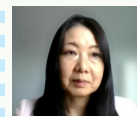


“当地で想定される自然災害は、ハリケーン、暴風雨による水害、そして寒波。常日頃から非常用食品や飲み水を備蓄しておくこと、避難する際に持ち出す物のリストを作り、すぐにバッグに詰められるようにしておくことが大切です。”

ウェビナー講師 小川嘉明

ヒューストンで安全に暮らす秘訣は、情報ソースを確保しておくこと

商工会ホームページの「[安全・危機管理情報](#)」には、商工会で蓄積してきた当地で暮らす上で役に立つ情報が集約されていることをご存知でしょうか。例えば、「[ハリケーン情報](#)」のコーナーでは、ガルフストリームのバックナンバーからハリケーン対策グッズリスト、お役立ちサイト、アプリ、単語集、体験記などをご紹介します。このほか、「[ヒューストンの最新治安情報と対策](#)」、「[COVID-19情報](#)」、「[寒波情報](#)」などのコーナーでも、それぞれ当地で安全に暮らしていくために必要な情報をご紹介しますので、あわせてぜひご活用ください。



“経験から学んだことは、避難警告を待たず、自分で天気予報などの中継をしっかり聞き、避難するか否かを判断することです。”

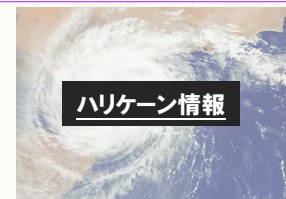
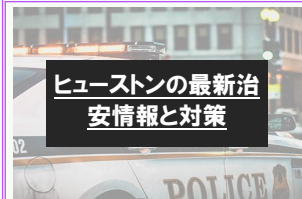
ウェビナー講師 石井英理子



ハリケーン・ハービーの際、救助ボートからみたアパート前の道路。洪水の水位は、SUVの屋根レベルに達していた。



洪水の中、近所で独り暮らしの高齢者とペットを連れて一緒に避難。救助してくれたのは、他州から自分のボート持って駆けつけてくれたボランティア。



◀商工会HP [安全・危機管理情報ページ](#)